

手しごと職人の作品がズラリ 第15回暮らしの中の手仕事展

五十崎商工連盟匠会が主催する「第15回暮らしの中の手仕事展」が4月3・4の両日、五十崎風博物館で開かれました。今年は、「初心に戻ると同時に、こだわりを持った変化も大切にしたい」という思いを込め、『彩・初・研』をテーマに、町内10団体が出展。会場には木の器、陶芸品、和紙の壁紙など約1,000点が並び、来場者はそれぞれの作品に興味深く眺め、お気に入りを買って帰っていました。



個性豊かな作品の前に、出展者と来場者の会話も弾む



春の日差しを浴びながら、のんびり筏流しを楽しむ

筏に乗って小田川を悠々と 川まつり・筏流し

川登自治会(稲積仁志会長)は4月25日、昭和20年代まで行われていた筏流しの伝承と小田川の自然環境保全を目的として「第20回川まつり・筏流し」を開きました。前々日まで降った雨による増水でメインの筏流しは中止となりましたが、筏乗船体験では親子連れなどが乗り込み、対岸にいる家族に手を振って楽しんでいました。また地元農産物の直販やバザー、もちまきなどが行われ、多くの人でにぎわっていました。

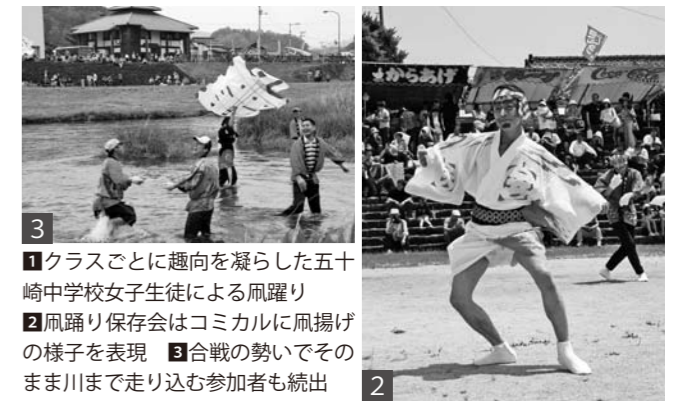
思いをのせて大空へ いかざき大凧合戦

400年の伝統を誇るいかざき大凧合戦が5月5日、豊秋河原で行われ、大勢の参加者と、約4万2千人の観客でにぎわいました。

当日は晴天に恵まれ、上空に強い風が吹くまさに凧合戦日和。最大の見どころである大凧合戦には約80団体が参戦し、ガガリと呼ばれる刃物を凧糸に付けて相手の糸を切り合う迫力に、会場が大いにわきました。恒例の100畳凧揚げは、数秒間浮かんだ後、強風にあおられて落下してしまっただけで、健やかな成長を願って今年初節句を迎える子どもたちの名前を記した出世凧は、みんなの願いを込めて大空へ高く舞い上がりました。

そのほか各会場では、少年剣道大会、中学生創作凧審査と凧合戦、凧踊り、太鼓演奏、子ども俳句凧大会など、さまざまな催しがありました。

下野安彦実行委員長は、「参加している人が楽しみ、見ている人ももっと楽しい祭りにしたい。マンネリ化しないように、みんなの意見を取り入れ、毎年進化させていきたい」と今後に向けて抱負を語っていました。



1 クラスごとに趣向を凝らした五十崎中学校女子生徒による凧踊り
2 凧踊り保存会はコミカルに凧揚げの様子を表現
3 合戦の勢いでそのまま川まで走り込む参加者も続出

御祓の自然をたっぷり満喫 うちこ自然浴ツアー

御祓地区の自然を楽しむ「うちこ自然浴ツアー」(同実行委員会主催、上岡満楽会長)が4月25日に開かれ、町内外から約60人が参加しました。ツアーでは、午前中に龍馬脱藩の道を含む約2.6kmを散策。昼食には棚田米のおにぎりなどが用意され、参加者は自分たちでついたおもちと共においしそうに食べていました。周囲は2月に植えた500本のシャクナゲが見ごろで、美しい自然に囲まれてツアーを楽しんでいました。



毎回参加しているというファンも多く、和やかな雰囲気



インターネットのテレビ会議を利用し、料理の作り方を説明

インターネットで料理教室 程内こんにゃく芋グループ

程内こんにゃく芋グループ(大程幸子代表)は5月4日、内子自治センターで、インターネットを活用した郷土料理交流実験を行いました。同実験は、愛媛大学農学部小田清隆准教授の提案で実現。互いにテレビ画面を通し、上北沢区民センター(東京都世田谷区)に集まった8組の親子と一緒にこんにゃくや山菜おこわなどを作りました。大程さんは「元小学校舎の活用や地域農産物の販売につなげたい」と話していました。

元気いっぱい遊んだよ 第11回内子町子どもフェスティバル

「子どもたちの元気が内子町の元気」をテーマに第11回内子町子どもフェスティバル(同実行委員会主催)が5月15日、内子運動公園総合グラウンドで開かれました。会場にはパトカーやはしご車、ショベルカーなどの乗車体験や、お化け屋敷、科学実験、ミニゲームなど16の体験コーナーが設けられました。子どもたちは、興味のあるコーナーに次々に挑戦し、家族や友人たちと楽しい時間を過ごしていました。



はしご車に乗って、12mの高さを体験



興味深く講話を聞く受講生たち

さまざまな文化を学ぼう 22年度「気軽に文化講座in内子」

世界各国の文化を通して自分たちの地域を見つめ直そうと、内子町教育委員会および愛媛大学法文学部人文学科などが主催する「気軽に文化講座in内子」の22年度第1回講座が5月20日、内子自治センターで開かれました。同講座では、中原ゆかり文化人類学教授が「日本のジャズ史」をテーマに講演。懐かしい映像や音楽を用いて、ジャズが歌謡曲などに与えた影響を解説し、参加者は楽しみながら学んでいました。